

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○計画的に問題を解くよう伝えてきた結果、市平均より最後の問題まで解いている児童が多かった。 ●一つ一つの語句の意味の理解が難しい。 ●必要な情報(キーワード)を抜き取ることが苦手→要約が難しい。	・日頃から文章や語句に触れる習慣を取り入れる。(読書、学習した漢字の掲示、漢字ノートにも熟語で練習する) ・毎日の授業で重要語句に線を引く練習をしていく。
算数	○考えを説明する問題で、自分で気づいたり、考えたりしたことを駆使して説明しようと取り組んでいる児童が多い。 ○作図の問題は正答率が高かった。 ●量的概念や図形の性質などの概念が弱い。 ●文章を読解したり、自分が考えていることを表現したりすることができにくい。	・自分の考えを説明するときには、「まず一つまりーだから」という話型を使って、順に説明していく場を意識的に設定する。 ・記事を読み取って要約したり、記事について自分が考えたことを書く取組をするワークシートを活用する。 ・コンパスや数図ブロックなど、実際に手を使って取り組む活動を繰り返し行える場を設定する。
理科	○生活経験と問題を結び付けることで、予想を立てて回答することができる。 ●記述の問題において、結果と考察を関連付けて思考することが難しい。	・教員が普段の授業の中で、問題作りから考察までの過程を意識させる。 ・3年生から6年生にかけて理科の学習においてつけない力を意識しながら授業を行っていく。

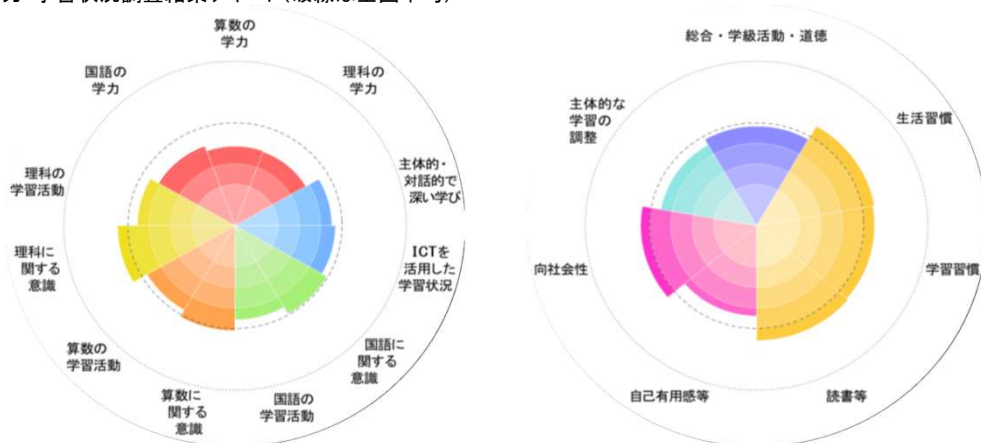
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○友だち関係に満足している児童の割合が徐々に増えている。 ○平日に家庭で1時間以上学習できる児童が増えた。 ●昨年に比べると肯定的な回答の割合が増えているが、まだICTを使いこなせていないと感じている児童もいる。 ●真面目な子が多いので、与えられた疑問については一生懸命に考える。しかし、自分から日常生活と結びつけながら考えたり、能動的に学んだりする姿はあまり見られない。	・ICTに触れる機会はあるが、苦手な児童は得意な友だちに教えてもらって自分ではできないままになっている児童もいる。今後も下学年から総合的な学習の時間や社会の学習で利用するようにし、活用能力を徐々に高めていくことができるようにする。 ・授業の導入を工夫し、子どもたちから自発的に「なんで?」「どうして?」など疑問が出てくるようにする。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・取り組む内容や提出する量や取り組む頻度など、各学年の実態に合わせながら、自主学習を全校で実施する。 ・自分の思いを表現したり、伝え合ったりできる手立てとして、ペア・トリオ学習、グループ学習を行ったり、ICTの効果的な活用を授業の中に取り入れたりする。
------	---

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

69

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

